

毎回、異なる講師による輪講の形式を取る。状況に応じて授業回を入れ替えることがある。

第1回 4月12日(水) 小柳津英知(富山大学経済学部)

授業の進め方の説明、教科書の概要紹介WTO、比較生産費説などの基礎事項の確認。

第2回 4月19日(水) 川崎賢一(駒澤大学CMS学部) 「東南アジアにおける文化政策の現状」

東南アジアの文化政策について概況を二つの点から説明する。一つは東南アジアの歴史を概観し、アセアンの文化政策までその輪郭を説明する。もう一つは、文化政策について芸術文化や文化産業などに焦点を当てて、それらを積極的に推し進めているシンガポール・マレーシア・タイなどの文化政策についてその特色を明らかにする。

第3回 4月26日(水) 小柳津 英知(富山大学 経済学部)

教科書の第10章「中国の対日のアンチダンピング提訴集中の背景と今後の対応策について」

第4回 5月10日(水) 進藤栄一(筑波大学名誉教授)

教科書の第1章「アジア共同体と戦略的思考」

第5回 5月17日(水) 酒井富夫(富山大学極東研究センター) 「東アジアの経済発展と食料・農業問題」

東アジアの経済発展が食料・農業に与える影響という視角から、東アジアにおける食料・農業が抱える課題について学ぶ。経済発展＝所得増大により食料消費は増大し、東アジア以外の地域からの輸入が増えるなかで、労働力流出・小規模零細農業としての共通性をもつ東アジア農業は生き残れるのか。また、生き残るにはいかなる対策が必要なのか、等について考える。

第6回 5月24日(水) 王 大鵬(富山大学経済学部) 「東アジア地域の経済連携と経済統合」

近年アジア太平洋地域における経済統合に向けての動きから地域連携の現状と課題を検討する。特に域内主要国のFTA、TPP、RCEP、日中韓FTAとその経済的、社会的な効果・影響について重点的に説明する。最後に東アジア地域経済統合の可能性について考える。

第7回 5月31日(水) 坂 幸夫(富山大学名誉教授)

教科書の第11章「中国人技能実習生の日本からの離脱とインドネシア人、ベトナム人技能実習生の増大」

第8回 6月7日(水) 尹 文九(東京福祉大学) 「東アジアの少子・高齢化の現状」

東アジアの少子・高齢化の現状を一般論から日本と比較して検討する。その後、対策の一つとして「DJウェルフェアリズム(生産的福祉論)」を東アジア福祉モデルとして取り上げ、その内容や課題について検討する

第9回 6月14日(水) 岩内秀徳(富山大学経済学部)

教科書の第9章「アジア地域の経済統合にみるメガFTAと日本企業」

第10回 6月21日(水) 渡辺康洋(桜美林大学 現代マネジメント学群) 「東アジアの観光流動の特徴と課題」

観光の推進は近年その重要性が増している。講義ではまず日本と世界の観光の状況、観光の定義、効用などを含む観光学の基礎を確認した上で、東アジア地域における観光流動の現状、課題、将来性などについて論じる。

第11回 6月28日(水) 鈴木隆(名古屋学院大学法学部) 「脆弱性の観点から見た東アジア地域統合の理論と実際」

日本にとって、アジアは最も重要な経済パートナーである。反面、この地域には歴史認識や領土・領海をめぐる深い断層が存在する。政冷経熱の下で、東アジアの地域協力をどう推し進めていけばよいか。地域の脆弱性に対する認識、ないし危機意識という観点から、制度としての東アジア広域協力の可能性を探る。

第12回 7月5日(水) 矢島 桂(富山大学経済学部) 「『米騒動』と東アジア」

戦前期の日本は1918年の「米騒動」に見られるように深刻な食糧問題を抱えていた。この食糧問題の解決に東アジア諸地域を巻き込んでいくこととなる。こうした日本と東アジアの歴史的な関係を1910年代から1930年代における食糧問題を中心に考える。

第13回 7月12日(水) 金奉吉(富山大学経済学部)

教科書の第7章「日中韓FTA」の必然性と政策的課題」

第14回 7月19日(水) 五十嵐暁郎(立教大学名誉教授)

教科書の第4章「地方がつながるーもう一つの東アジア共同体の可能性」

第15回 7月26日(水) 笠原十九司(都留文科大学名誉教授)

教科書の第5章「歴史認識問題と日中関係」

授業時間外学修(事前・事後学修) / Independent Study Outside of Class

1. 事前学修

スケジュールに従ってテキストの該当する章を読み、疑問点などを抽出しておくこと。

2. 事後学修

毎回、履修者から集めた質問に対する回答を担当講師が作成し、翌週以降にそれを配布するので、よく読んで確認しておくこと。

キーワード/Keywords

アジアの地域統合、経済統合の理論、歴史認識問題、国際観光政策

履修上の注意/Notices

指定した専門書を教科書として利用するので、各自一冊必ず入手すること。

教科書・参考書等/Textbooks

岩内秀徳・星野富一編 『東アジア共同体構想と日中韓関係の再構築』 昭和堂 ISBN978-4-8122-1521-0C3036 3200円(税抜き)、この専門書を利用しない講義については、担当講師が必ず資料を配布することになっている。